ニュー・イングランドへ（6）マウント・オーバン墓地　　2023.10.11.

午前中はコンコードを観光し、午後にボストンにあるマウント・オーバン墓地に向かいました。この墓地は 1831 年頃、ハーバード大学の西の丘陵地帯に作られた 69 万平方キロ（青山霊園の 2.6 倍）もある美しい公園墓地で、宗派を問わない共同墓地です。

この墓地訪問は出発の 2 週間前にジョセフ・ヒコ記念会の会員の方からの情報により、急遽、計画が追加されました。ここに、19 歳のジョセフ・ヒコが経済恐慌のため、働くことになったサンフランシスコのマコンダリー商社の共同出資者であるトマス・ケアリーJr 氏[1]が眠っておられます。また、彼の両親、兄弟、姉妹とその家族の墓所もあります。

ヒコにとっては大切な恩人たちのお墓です。稲垣さんはその場所を確認し、お参りをして、感謝を捧げたいお気持ちでいっぱいでした。刻まれた文字は経年劣化で薄れています。墓石を撫でるように一生懸命読み、一つづつ、これは誰、これは誰、と確認していかれました。最後にヒコに成り代わって、祈りを捧げられました。そして、本当に良かったと喜ばれました。

後日、マウント・オーバン墓地のサイトを検索してみました。埋葬されているすべての人の名前と生年、没年が登録され、写真、その他の記事も追加されていて、見ることができます。

ヒコに資金援助をしてくれたトマス[1]の父ケアリーSr 氏[2]は 1859 年 7 月 8 日の Fall River Daily News に「ボストンのリベラルで公共心にあふれる市民の一人で、ナハントの夏の家で過ぐる日曜日の朝逝去。彼は 1791 年 9 月 7 日にチェルシーで生まれ、1811 年にハーバード大学を卒業。妻[3]と数名の息子、娘がいるが、娘たち（メアリー・ルイーザ）はフェルトン教授の妻[4]、（エリザベスは）アガシー教授の妻[5]である」との記事が乗っています。また、13 人の兄弟姉妹の 10 番目として生まれています。ケアリーSr 夫人のメアリー[3]はヒコがボストンを訪問した時には、優しくヒコを迎え、日本や東洋に非常に興味を持っていて、72、3 歳でかくしゃくとして活発であったそうです。弟のリチャード[6]は南北戦争に大尉として参戦し、シーダー・マウンテンの戦いで 26 歳で戦死しています。ボストンのキングス・チャペルの戦死者追悼記念碑に記されています。トマス[1]も妹のサラ[7]も配偶者の名前はないので、結婚はしなかったようです。（名前についた数字は墓地）

1	2	3	4	5	6	7